

令和4年度 豊田市地域自立支援協議会第1回全体会 議事録

■日 時 令和4年7月13日(水) 午後1時30分から3時30分まで

■場 所 豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室

■出席者

<委員 23名> (順不同)

平野隆之(会長)、阪田征彦(副会長)

那須江身子、三宅やすよ、大谷忠幸、鈴木誠子、神野桂一、有村秀一、森下尚志、鈴木雅樹、神谷真巳、西村多恵、横山裕一、辻望美、井上亘、照山紀子、成瀬智、金田光、梅田幸延

<担当者会議 5名>

渡辺裕矢、中村結香、千葉晃嗣、殿内勝夫、勝田康裕

<ブロックリーダー 4名> オブザーバーとして出席

鈴木雄介、堀尾志津香、国松佐知、後藤啓輔

<事務局>

豊田市 福祉部障がい福祉課、保健部保健支援課

■欠席者

<委員 3名> (順不同)

小田康夫、稲垣徹、岡本衛彦

■内容(要約)

1 あいさつ

○豊田市地域自立支援協議会 平野会長

2 議題

(1) 豊田市地域自立支援協議会の取組と今年度の事業計画等について

○平野会長

今年度の報告を受けるに当たり、豊田市の地域自立支援協議会の設置目的や役割等を改めて確認したい。

○事務局

資料1-1に沿って説明

○阪田副会長

豊田市の地域自立支援協議会が立ち上がり15年が経過した。10事業所がそれぞれの事業所の特色を生かし、委託相談の機能を担っている。地域の課題を吸い上げ、全市にて解決する仕組みについて横のつながりを重視し検討してきた。

○殿内委員

相談支援員にも得意不得意があるので、目の前の困りごとに焦点が行きがちであったが、ブロックごとによる協議体制ができたことにより、個別支援会議を通じて明らかになった課題を組織的又は地域づくりの視点を入れて解決していく土壌ができたと認識している。

○平野会長

議題1 追加資料を見ていただきたい。平成28年度の体制図では複数の部会があるが、立ち上げ当初は課題整理部会と就労支援部会のみだった。当初の就労支援部会を振り返りながら就労に関する課題を教えてもらいたい。

○有村委員

自立支援協議会を通じて、雇用場所の見える化や関係者による検討会など様々な取組をし、雇用について議論をしてきた。現在は、障がい者雇用率ビジネスと言われるようなものが広がっており、雇用の質について問われている。質を高めていくための議論が必要と考えている。

○平野会長

法改正も踏まえて、雇用の質については検討課題と考える。それらを踏まえて必要であれば、研修検討PTのように新たなPTを設置するなどの検討をしていただきたい。

次にブロックごとによる協議体制にした経緯について説明をいただきたい。

○事務局

身近な地域で相談できる体制が必要であるとし、平成29年度にブロックごとによる協議体制を取り入れた。各ブロックを通じて、地域の関係機関とつながるために取り組んだことにより、自立支援協議会の認知度が上がったと認識している。

平成28年度の組織体制図と令和4年度の組織体制図を比べると、関係機関会議への参加数が5から15に増えており、その効果であると評価している。

○平野会長

特別支援学校の卒業生の問題についての議論も印象に残っている。学校関係者を中心に意見を聞きたい。

○井上委員

コロナの影響で対面での実施ができていなかったが、このように進路に関して関係者と協議できる場があるのはありがたい。

○横山委員

本校では、保護者を対象にした進路を考える会を実施しているが、その際に自立支援協議会からも相談員に参加してもらっている。保護者からは知りたいことを知れてよかったという声をいつも聞くので、引き続き協力してもらいたい。

○梅田委員

卒業後の日中活動の場が10年ほど前は足りなかったと記憶している。その後、協議会の議論の効果もあり、ここ10年間で増加し、行き先がないという生徒が減った。市の課題をこの場で共有し、どう進めていくのかなどを議論できたことが効率的な事業の展開につながっていると思う。

○平野会長

次に、平成24年度から継続して取り組んできた医療的ケア児者等支援部会について報告をお願いしたい。

○千葉委員

資料1-3 令和4年度 医療的ケア児者等支援部会 に沿って説明

当部会は、医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場としても位置付けられているため、豊田市こども発達センターや看護学校など、関係機関との連携やつながり作りも含めて取り組んでいきたい。

○神谷委員

医療的ケア児への産まれてすぐからの支援を重要視している。支援に当たっては、2つの課題があると実感している。1つ目は、医療的ケアがあっても地域のこども園に通える環境を作っていくこと。毎年2名の保育士が豊田市こども発達センターへ行き、1年間かけて医療と療育を学んでいる。今まで延べ4名の保育士がその経験を生かし、こども園で従事している。2つ目は産まれてすぐにつながる訪問看護ステーションとの連携を図ること。地域の福祉・保育・教育に結び付いていくためにつながりを作っていきたいと考えている。ぜひ、医療的ケア児者等支援部会との連携をお願いしたい。

○平野会長

次に、精神障がい者に関する課題を確認したい。

○成瀬委員

7万人近くの長期入院者がおり、地域への移行も重要であると考えているが、新たに長期滞在入院とならないように、地域で暮らし続ける仕組みを作ることもしっかりと考えていく必要がある。

○堀尾氏（中部ブロックリーダー）

自立支援協議会で議論なされていた課題を引き継ぎ、精神障がい者地域支援協議会が設置されている。関連する法律や精神障がい者に関する考え方などが昔と変わってきている中で、当事者の方の想いをしっかりと受け止めて引き続き協議していくことが大切と考える。

○事務局

精神保健福祉関係機関連絡会議と自立支援協議会のWGを合わせて、令和元年度に立ち

上げたのが精神障がい者地域支援協議会である。

直近の取組としては、地域の支援者と精神科病院との連携した支援が見えづらいという課題があり、体制図を作成し見える化を行った。現在、各事業所や精神科病院で活用している。一方で、地域の課題はまだ幅広がある。支援体制を推進するためにどのような課題があるのか調査が必要であるとし、今年度、大きく2点の調査を実施していく。1点目は地域活動支援センターのあり方に関する調査、2点目は地域移行において連携がどのように行われているかの調査である。

○鈴木委員

ある家庭で精神障がい者の子どもが暴れて両親が対応に困った事例があった。24時間の相談体制があると安心できる。豊田市障がい者ライフサポートプランの事業評価について利用者の視点での評価もあると良い。

○平野会長

重層的支援体制推進事業のとよた多世代参加支援プロジェクトにて、障がいの事業所が積極的に参加して成果を出していると聞いている。その点に関して話を聞きたい。

○阪田副会長

重層的支援体制では、既存のサービス利用では解決にならない困りごとを、行政だけではなく民間も含めた分野の垣根を超えた連携をしていく仕組み。特に障がい分野は、複合した問題になる事例が多いので、個別課題にどういう連携で取り組んでいくのかが重要である。

○後藤氏（中山間ブロックリーダー）

足助地区でも、障がい・高齢等の垣根を超えた複数の事業所が連携して、地域の困りごとや事業所の課題を解決するために取組を行っている。具体的な事例をとして、中山間地域の働く場が少ないとの課題に対して、地元のお寺の掃除等の仕事を複数の障がいのサービス提供事業所が共同で行い、働く機会を確保している。また、介護保険サービス提供事業所が所有する休耕地を利用し、障がい者・高齢者・子育てグループ・地域住民が参加してサツマイモを育て収穫した。1つの事業所のアイデアを複数の事業所が共有し、多世代交流を図っている。

○平野会長

他のブロックの取組も確認したい。

○国松氏（南部ブロックリーダー）

資料1-3 令和4年度南部ブロック事業計画書兼実績報告書に沿って説明

南部ブロックの地域課題としては、豊田市の中心地よりも近隣の市町村の方が近く、豊田市のサービスを把握しているだけではつながらないというものがある。そのため、市外の相談支援事業所や障がいの事業所とも連携を図っている。

○平野会長

今年度から新しく立ち上がった研修検討 PT の取組について説明をお願いしたい。

○勝田氏（研修検討 PT リーダー）

資料 1 - 3 令和 4 年度研修検討 PT 事業計画書兼実績報告書に沿って説明

令和 2 年度に相談支援員の支援力不足が課題として挙がり、研修をただやるのではなく、相談支援員のあるべき姿を定めた上で実施していくべきということで、令和 3 年度に相談支援専門員の「あり方」を議論した。それに照らし合わせ、研修検討 PT では獲得目標を明確化し、研修後の効果検証を実施する仕組みを作り、支援力向上を目指していく。

○中村委員

各ブロックから挙がってきた課題には様々な背景があるが、その一つとして相談員の支援力もあると考えている。研修検討 PT にて相談支援力の向上を取り組んでいくことで、全課題に対して関係機関と連携しながら解決していくスピードが上がっていくと考えている。

○平野会長

先ほどの就労に関する議論でも出ていたが、いろんな取組が進み、いよいよ質が問われてくる段階になっているように思う。今後は、質に焦点を当て、豊田市ならではの価値等を設定して進めていってほしい。

様々な話題が挙がったが、ほかにも発言があればお願いしたい。

○西村委員

みよし市にある名古屋刑務所の職員と話をする機会があり、再犯を防ぐためにも、出所後の居場所づくりや仕事など役目を持つことの重要性を感じた。福祉サービスから漏れていかないように、今後も関係者が連携して進めていけると良いと思う。

○平野会長

就労に関して様々な意見が出たが、就労について多角的な方向から議論する場が現在はないため、今後検討をお願いしたい。

(2) 第5次豊田市障がい者ライフサポートプランの進捗について

○事務局

資料2-1、2-2に沿って説明

○平野会長

施策分野5の成果指標についてどう評価しているか。

○事務局

1年以上の医療保護入院者数について減少を目指すものであるが、増加の背景ははっきり分からない。国のデータベースを確認すると、入院者に対する1年以上の保護入院者の占める割合については変わっていないため、入院者数の母数自体が増えていることも要因の可能性はある。

(3) 第5次豊田市障がい者ライフサポートプランに係る実態調査の実施について

○事務局

資料3-1、3-2、3-3、3-4に沿って説明

閉会